

会 期	2025年2月1日(土)~3月30日(日)
開 館 時 間	午前10時~午後6時
会 場	A-LAB (えーらぼ) 尼崎市西長洲町2-33-1
休 館 日	火曜日 * 2月11日は開館、2月12日は休館
入 場 料	無料
主 催	尼崎市

開催要旨

第2回白髪一雄現代美術賞を受賞した井上裕加里による展覧会「JIN, JIYAN, AZADÎ 女性、命、自由」を開催します。井上は国内外でリサーチを行い、「世界の女性の地位の問題」などをテーマに制作を続けています。作家自身が抱いた疑問を、様々な境遇の人との対話を通して考察し可視化することで、複雑で矛盾に満ちた社会問題を鑑賞者とともに考える姿勢を貫きます。今回の個展では、イランでの滞在経験をもとにした近作・新作を中心に展示し、「女性、命、自由」を取り巻く状況や視点を提示します。

白髪一雄現代美術賞について

尼崎市では、既成概念にとらわれない前衛作品を発信し世界的に評価された本市ゆかりの現代美術家・白髪一雄氏にちなみ、若手アーティストによる先駆的で魅力のある現代美術作品を顕彰し、若手アーティストのこれからの活躍を応援しています。第3回白髪一雄現代美術賞の応募締切日は、2025年3月21日です。詳細は尼崎市文化振興財団(TEL:06-6487-0806 / FAX:06-6482-3503)までお問い合わせください。

ステートメント

私は、近年の日本における婚姻制度や女性の地位に関する問題に関心を持っています。日本はジェンダーギャップ指数において他のアジア諸国の中でも低い位置にあります。しかし、この指標自体が欧米中心の価値観に基づいており、東洋における男女平等の実感とは異なる部分があるのではないかという疑問を抱きました。そこで私は2022年、ジェンダーギャップ指数が下位に位置するイランを訪れました。

イランで女性たちと交流する中で、彼女たちは強い結束力と豊かなネットワークを持ち、抑圧的に見られがちなヒジャブも、実際に纏ってみることで、女性としてではなく個人として尊重されるという異なる意味があることを理解し、中東地域に対する誤解があったことに気付かされました。

一方で、2022年にはヒジャブの不適切な着用を理由に道徳警察に逮捕された女性が死亡する事件が発生し、女性の人権が依然として軽視されている現実もあります。この展覧会では、2022年のデモで掲げられたスローガン「JIN, JIYAN, AZADÎ 女性、命、自由」をテーマに、この複雑な問題に向き合いたいと考えています。

井上裕加里（出展作家）

関連イベント

① トークイベント

日時：2月23日（日）午後2時～午後3時

ゲストに北原恵さん（大阪大学名誉教授、ジェンダー研究）をお招きして、出展作家と「アートと女性」について話をします。要申込。定員先着20人。

イベント名、氏名、電話番号、参加人数を明記の上、A-LAB（amalove.a.lab@gmail.com）までお送りください。

② 作品解説会

日時：3月1日（土）午後2時～午後3時

出展作家による解説を聞きながら作品を鑑賞します。申込不要。

広報用画像

このプレスリリースに掲載されている画像データ（※5～6ページ参照）をプレス掲載用にご用意しております。下記の使用条件をご了承の上、A-LABまでお申し込みください。

使用条件：

- ・ 広報画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを表示ください。
 - ・ トリミングや画像加工などはご遠慮ください。
 - ・ アーカイブのため、後日掲載紙、URLなどをお送りください。
- 以上、ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

問い合わせ先

A-LAB（午前10時～午後6時 *火曜日休館）

担当：田野、八木

電話 / FAX 06-7163-7108 メール amalove.a.lab@gmail.com

尼崎市文化振興課（平日：午前8時45分～午後5時30分）

担当：山城、原田

電話 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6702

作家略歴

■井上 裕加里 (いのうえ ゆかり)



Photo by Wataru SHINO

広島県出身

2012年 倉敷市立短期大学 服飾美術学科 卒業

2014年 成安造形大学 芸術学部芸術学科美術領域現代アートコース 卒業

私は、東アジアの近代化に潜在する歴史認識や文化観の差異、そしてそれらの関係性や地域性をテーマに作品を制作しています。他者・他国を排除する動きが世界で顕著化している今日、「他者」とは何か、「私たち」と「私たち以外」の境界とは何かを、作品を通じて考察しています。

【主な個展】

2017年「堆積する空気」、Gallery PARC、京都

2019年「線が引かれたあと」、KUNST ARZT、京都

2022年「Women atone for their sins with death.」、KUNST ARZT、京都

【主なグループ展】

2013年「ここはどこか、あるいは何か」、越山計画、札幌

2014年 日韓交流展「add me! CARRY MORE」、韓国電力アートセンターギャラリー、ソウル、韓国

2017年 京都府アーティスト・イン・レジデンス事業「京都：Re-Search」大京都 in 舞鶴、聚幸菴、京都

2019年「Parallax Trading」、das weisse haus、Vienna、Austria

2019年「Kyoto Art for Tomorrow2019- 京都府新鋭選抜展-」、京都文化博物館、京都

2020年「Kyoto Art for Tomorrow2020- 京都府新鋭選抜展-」、京都文化博物館、京都

2021年「Soft Territory かかわりのあわい」、滋賀県立美術館、滋賀

2022年「第1回 MIMOCA EYE / ミモカアイ」、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川

2023年「産まみ(む)めも」、oz studio 渋谷東、東京

【受賞】

2019年「Kyoto Art for Tomorrow2019- 京都府新鋭選抜展-」ゲーテ・インスティテウト・ヴィラ鴨川国際交流賞

2020年「Kyoto Art for Tomorrow2020- 京都府新鋭選抜展-」ゲーテ・インスティテウト・ヴィラ鴨川国際交流賞

2022年「2021年度 平和堂財団芸術奨励賞」美術部門

2022年「第1回 MIMOCA EYE / ミモカアイ」選考委員個人賞 植松由佳賞

2023年「第2回白髪一雄現代美術賞」

2024年「サゴリリサーチアワード」特別賞 加納実紀代応援賞

【収蔵】

2023年「こうさすくこうえん」滋賀県立美術館

参考図版



1



2



3



4



5



6



7



8

参考図版



9



10



11



12



13

- | | |
|------------------------------------|----------|
| 1. 《Auld Lang syne》 2014 | 撮影：麥生田兵吾 |
| 2. 《marginal woman - 境界人 -》 2019 | |
| 3. 《grouping》 2021 | 撮影：麥生田兵吾 |
| 4-6. 《こうさするこうえん》 2021 | 撮影：麥生田兵吾 |
| 7-8. 《女性は罪を贖うために死ぬ》 2022 | |
| 9. 《Asian kitchen》 2022 | |
| 10-13. 《Shadow workers》 2022 | 撮影：木奥恵三 |

次回展

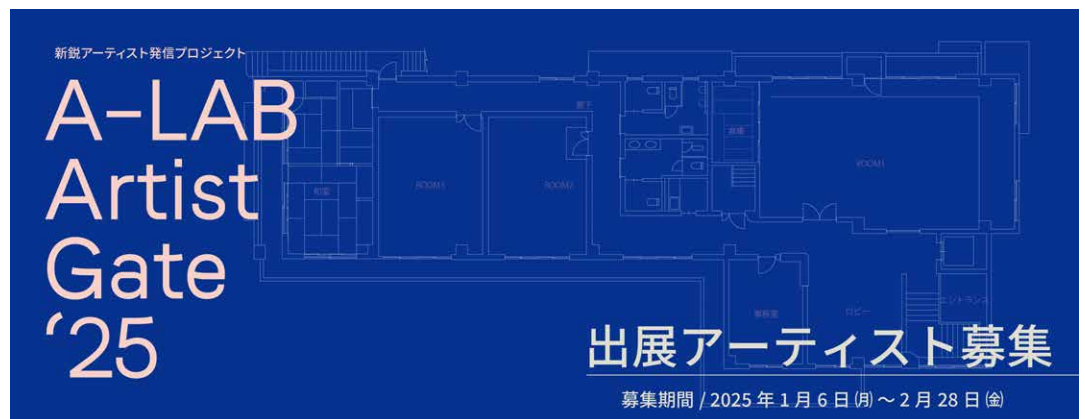
A-LAB Exhibition Vol.47

池原悠太 × Omult.Venzer 展 (仮)

2025年4月26日(土) ~ 6月22日(日)

デジタルコラージュによって平面作品や映像作品を生み出す美術家、池原悠太と「遊びの延長」を理念とする、造形アートブランド、Omult.Venzer (オマルト ヴェンザー) による二人展を開催します。

お知らせ



A-LAB Exhibition Vol.49

A-LAB Artist Gate '25

2025年10月18日(土) ~ 12月14日(日)

本プロジェクトは、今後活躍が期待される若手アーティストによるグループ展として毎年開催しているもので、10回目となる今回は令和7(2025)年の春に関西(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・滋賀県・和歌山県)の大学・専門学校を卒業予定、または大学院を修了予定の方を対象とします。平成28(2016)年に初開催して以来、これまで61人のアーティストを紹介してきました。10回目の節目を迎え、選考方法・出展条件を見直し、これまで以上に本展が若手アーティストたちの本格的な作家活動の一步となり、今後大きく羽ばたいていくことを期待します。

※ 出展アーティスト募集

募集期間 2025年1月6日(月) - 2月28日(金)

